



米山奨学生 関西学友会

ROTARY 2660 YONEYAMA
ALUMNI KANSAI 2016-2017

目次

あいさつ

2015～2017 年米山奨学生学友会（関西）会長

松田 振興 4

2016～2017 年度国際ロータリー第 2660 地区ガバナー

松本 進也 5

2016～2017 年度国際ロータリー第 2660 地区ガバナーエレクト

片山 勉 6

2016～2017 年度国際ロータリー第 2660 地区米山奨学委員会委員長

古城 紀雄 7

2016～2017 年度国際ロータリー第 2660 地区米山奨学委員会副委員長

田中 隆弥 8

奨学生スピーチ

張 淵「米山奨学生になって思うこと」 9

鄭 海蘭「米山記念奨学会の奨学生として」 10

陶 霆「私にとっての日本留学」 11

鄭珉贊「私にとっての日本留学」 12

ヨシア アディエティタ「私にとっての日本留学」 13

李 撼宇「私にとっての日本留学」 14

盧 聖芸「私にとっての日本留学」 15

林 士弘「私にとっての日本留学」 16

崔 璨「私にとっての日本留学」 17

バンサル クシュブー「私にとっての日本留学」 18

楊 成棟「私にとっての日本留学」 19

CONTENTS

叔バヤル ムソエルデ「私にとっての日本留学」	20
サガスル コントガス「私にとっての日本留学」	21
王璇「日本での留学生活で実感した絆」	22-23

年間行事報告

会計報告書	24-25
2016 年度 活動スケジュール	26
2016 年度米山総会及び新規奨学生歓迎会報告	27
活動写真	28-29
韓国学友会総会に思うこと	30
中華民国扶輪（ロータリー）米山会総会に参加して	31
台湾学友会総会に参加	32
マレーシア学友会設立記念式典に参加	33
募集要項	34
世界米山学友による感謝 in 熊本	35

Rotary



Did you know? 米山学友会の豆知識

About Yoneyama Scholarship Alumni Association

学友会とは？

本会は、元・現米山奨学生間の交流を通じて、親睦および互助を促進すると共に、国際親善・世界の平和に寄与することを目的とする非営利組織です。

イベントなどの最新情報を提供

本会は、ホームページやFacebook等による運営を行っております。また、メーリングリストによる一斉送信も行なっております。皆さまのご登録、心からお待ちしております。

Website: <http://yoneyama2660.com/>
Facebook: <https://www.facebook.com/yoneyama2660>
Email: yoneyama2660@gmail.com

学友会の会員になる方法

関西に在住の元米山奨学生（OB・OG）現役奨学生の方々は全員が本会の正会員、準会員とする。関西近辺にいる学友の皆さま、是非一緒に本会の活動にご協力、ご参加をお願い致します。

会費は必要ですか？

年会費は2012年度により廃止されました。
※但し、活動参加費のみ徴収しております。

学友の活動とは？

異文化理解から語学力発揮、ボランティア活動から地道なお手伝いまで、学友たちが力になれるところで、今までの恩に感謝する気持ちを込めて貢献しております。



2015～2017年度
米山奨学生学友会（関西）会長

世話クラブ：奈良大宮 RC

松田 振興

早くも二年が経ち、もうすぐ会長の任期が満了となります。

米山学友会（関西）に携わってからも、もう10年数が過ぎました。思い出せば、左も右も分からない時に役員に選ばれ、幹事長や副会長を経験し、最後には会長も就任させて頂きました。

米山学友会は、学友にとってどんな存在であるのかということを、会長になって改めて考えさせられました。優秀な何パスト会長の後に就任したため、たくさんのロータリアン先生から心配の声がありました。やりにくいのではないかとのことです。しかし、十人十色という言葉があります。自分らしい色を出せば良いのだと考え、総会テーマは何パスト会長の「飲水思源」から私の「実践躬行」に決めました。

2017年7月に、ロータリ米山記念奨学会財団設立50周年を迎えます。その記念として、世界の米山学友が集まり、50周年の節目を祝う「感謝 in 熊本」が開催されることになりま

した。これは、去年のソウル世界大会の時に、初めて世界米山学友会合同懇親会が開催されたことがきっかけです。米山学友会の一つ、We are Family、We are the World。

人という字は左に「ノ」と右に「ㄣ」で書かれています。なぜならば、人と人は支え合わないと生きていけないからです。この米山学友会でたくさんの人と出会い、たくさんの人と巡り会い、たくさんの人にお世話になり、たくさんの人と仲良くし、たくさんの人と繋がりました。

現役奨学生のみなさん、ロータリ米山記念奨学会の目的を覚えていますか？そして、学友のみなさん、我々はその目的に向かって努力し、達成していますか？人生にこの50周年は一度しかありません。ですので、これからの一年間、もっと多くの人と繋がり、もっと多くの社会参加と社会貢献ができるように、頑張っていきましょう。



米山学友会（関西）の皆様方へ

2016～2017 年度国際ロータリー
第 2660 地区ガバナー

松本 進也

この度は米山奨学生を終了されましたこと、心より御祝を申し上げます。

ロータリー米山記念奨学会は本年、財団創立 50 周年を迎える、由緒ある民間最大の奨学事業です。最大の特徴は世話クラブとカウンセラーを有することです。皆様はクラブ活動に積極的に関わることで、我々のロータリーの基本理念を共有し、奉仕活動を通じて地域社会に貢献して頂いたことと存じます。これは他の奨学事業とは一線を画しております。当方が所属する大阪北 RC でも毎年 1 名の学生を受け入れ、毎月の例会出席を通じて、カウンセラーのみならず会員との友好関係を保っています。昨年の地区大会後の当クラブ、台北北區 RC、南ソウル RC の三姉妹 RC パーティーでは当クラブ奨学生の林在恩さん、米山学友会より頼香奈依さんが素晴らしい同時通訳を行いました。また卒業生の常攀攀さんや甘耿さんが地区行事に出席するなど、良好な関係を継続しております。また、昨年度の当クラブ三姉妹交流懇親会の 3 日間、米山学友会より林小微さん、関スラさん、東林華さんに通訳をお願いし、お蔭さまで盛会裡に終わることができました。皆様はこのような奨学期間終了後も、世話クラブや当地区との関係を保ち、将来は母国と日本の架け橋となる人材となることを、日本の 9 万人のみならず、全世界 120 万人のロータリアンが期するところです。

昨年 5 月 29 日 -6 月 1 日にはソウル国際大会が開催されました。分科会は史上初めて米山記念奨学会が担当され、モデレーターは当地区の若林紀男副理事長が務められ、3 名の米山学友がパネラーとなりました。世界に「米山」の存在をアピールする素晴らしい機会になったことと存じます。更に、財団設立 50 周年を祝して、本年 8 月 26 日に世界米山学友による【感謝 in 熊本】を開催され、記念事業として『世界米山学友会』を発足なさるとのこと、お慶び申し上げます。また、発足にあたり、世界各国・日本各地の学友が米山合同会実行委員会を結成し、委員長に何玉翠さんが就任されました。皆様は米山学友である誇りを生涯胸に、国を超えた社会活動及び世界平和への貢献を行い、実りある人生を歩んで頂きたいと存じます。

皆様は米山学友であると同時に本年 3 月 27 日に RI より日本で初めて加盟認証を受けた「第 2660 地区ロータリー学友会」の一員になる資格を有しています。会員は 50 名で発足し、その中で米山学友からは 19 名の皆様が入会され、何玉翠さんが副会長に、潘振興米山学友会長が会計監査に就任されました。本学友会は当地区の財団、青少年、奨学活動に関わった青少年に対し、有機的な繋がりを持ち、ロータリー精神に基づいた自己研鑽、自己実現の機会を提供することを目的としています。米山学友は 2014 年に RI の正式な一員となり、RI 全ての事業に参加資格が認められることになりましたが是非、当地区ロータリー学友会に入会され、新たな所属の場を持つことで更に活躍の場を広げて頂くことを願いたします。

また、ロータリーの根本精神であり、当方のガバナー方針でもある“The Ideal of service”ですが、本年生誕 150 周年を迎える米山梅吉翁は、日本語訳の際、「奉仕の理念」と訳さずに“service の理念”と敢えて原語を使用しました。それは「奉仕」とは自己犠牲の意味合いが強く、本来の「相互的行為」を示す“service”の意味と合致しないからです。我々は皆様に奨学制度の支援という service を行い、皆様は我が国の民間外交の一翼を担うことが即ち我々への service の還流であります。この相互的行為の連鎖が良質な社会を構築し、世界平和へと繋がります。

平和の象徴である東京オリンピックが開催される 2020 年は米山梅吉翁が日本で最初の東京 RC を創設した。日本のロータリー 100 周年の記念すべき年であります。来たる 3 年後、皆様は国際社会で活躍し、より密接にロータリーと関わり、我々と共に 100 周年を祝うことを祈念申し上げます。最後になりましたが、関西米山学友会の益々の発展並びに皆様のご多幸とご健康を祈念申し上げます。

以上

米山学友会（関西）の皆様方へ

2016-2017 年度国際ロータリー
第 2660 地区ガバナーエレクト

片山 勉

昨年 ガバナーエレクトとして初めて米山奨学生選考会に参加し、応募された皆様が高い志を持っておられることに驚くと同時に、米山記念事業の素晴らしさを改めて知ることができました。

また米山学友会（関西）の事業にも参加し、他地区の模範となる活発な活動は印象深く、ロータリアンの一人として誇らしく感じました。

2017-18年度は米山奨学会が全国組織になり60年、公益財団法人米山記念奨学会設立50周年の節目の年度となります。

また創始者である米山梅吉氏の生誕150年（1968年2月4日生）の記念すべき年度でもあります。

皆様ご承知の通り米山梅吉氏の「世界に良いことをしよう」という思いが米山奨学会の設立となり、形になったものです。

次年度は財団設立50周年をお祝いし、生誕

150周年を皆様とともに祝い、多くのロータリアンと一緒にそのイベントに積極的に参加したいと思っています。

奨学事業の使命である「日本と世界とを結ぶ架け橋となって国際社会で活躍する人材を育てる」を体現しておられる米山学友の人たちとロータリアンが親しく接することが奨学事業の充実に必ず結びつくと確信しています。

前年度5月13日に他地区に先駆けて「ロータリー学友会」のRI認証状伝達式が開催され、全ての青少年奉仕活動のプログラム終了者が横断的に繋がる場が出来あがりました。

ロータリーの目的であるリーダーシップの育成と、ロータリアンとの結び付きを、より一層強くする為に、この組織にも参加していただきたいと思います。

米山学友会（関西）の益々のご発展と充実を願っています。

期待される 米山学友会の国際展開

—その中心で活躍する 2660 地区の米山学友のみなさん—

2016-2017 年度国際ロータリー
第 2660 地区米山奨学委員会委員長

古城 紀雄

わが国のロータリー運動の父「米山梅吉翁」の遺徳を讃えて継続されてきた「ロータリー米山奨学事業」は、約 65 年間に渡る先輩ロータリアンの間断のない努力を得て、累計約 2 万人の留学生を支援し共生してきました。世界に飛躍した米山学友の大活躍ぶりは目を見張るものがあり、2017-18 年度には財団設立 50 周年を迎えることと相まって、同慶の至りと言えます。

ここ R I 2 6 6 0 地区でも、かつて日本各地で米山奨学金の支援を受け、現在は当地区に住まいする「米山学友」のみなさんが、米山学友会（関西）の旗のもとに結集されて、地区ロータリー活動への協力と独自の学習・懇親活動を展開されています。ことに「新奨学生オリエンテーション」、「スピーチコンテスト」、「地区大会」、「次年度奨学生選考会」などの行事では毎年欠かせぬ協力をしてもらい、地区役員・地区委員一同深謝しているところです。このような協働は当地区の活発な米山奨学事業に不可欠となっており、当地区ロータリアンの揺るがぬ誇りとなっています。

加えるに、米山学友会（関西）が期待されている「米山学友の世界組織の創立」へ大きな尽力を継続してきていることも頼もしい限りです。毎年 7 月初めの日曜日に開催されている同会の総会には、近年、台湾・韓国・タイなどの国外の学友会から代表が参加してきています。そして、昨年 of ソウル世界大会に先立つ 5 月 28 日に、世界からソウルに集った学友・ロータリアン約 300 人が参加して「米山学友合同懇親会」が成功裡に開催されま

したが、これには米山学友会（関西）が大きな貢献を果たしたことが知られており、同会の総会開催で培った人脈が活かされたと理解されます。

この流れは本年上述の財団設立 50 周年関連行事として米山記念奨学会の後援を得て 8 月 26 日に開催される「世界学友による感謝 in 熊本」大集合に引き継がれ、企画段階から経験と人脈を生かしたさらに大きな尽力が期待されています。そして「国際米山学友会」の創立が近い将来に実現されるのではないかと期待している次第です。

ところで、本事業の源泉としての「米山記念奨学会への寄付」については、近藤雅臣元副理事長・若林紀男現副理事長を擁する当地区では、歴代ガバナーの強力リーダーシップのもとに、協働してきた地区米山委員会による誠実かつ活発な啓蒙活動が徐々に功を奏し、地区ロータリアンの本事業への深い理解をいただくに至っています。事実、2016-17 年度での寄付活動は近年にない飛躍的な伸びを見せており、これまた同慶の至りと思っています。この傾向を維持することで、近い将来には米山奨学生の世話を希望される当地区のすべてのクラブに、奨学生のお世話をお願いできる状況にならないかとさえ、夢見ている昨今となっています。

末筆ながら、米山学友会（関西）の 2017-18 年度総会の開催をお祝い申し上げますとともに、2017-18 年度当地区米山奨学事業にご協力くださったロータリアン・学友の皆さんに深く感謝申し上げます、引き続きよろしくお願い致します次第です。



米山奨学事業は 国際人材育成事業

2016-2017 年度国際ロータリー
第 2660 地区米山奨学委員会副委員長

田中 隆弥

3年前の4月に開催された新奨学生オリエンテーションの後、5月下旬から6月上旬にかけて新奨学生30名に対して各自20分間の個人面談を実施しました。みんなまだ緊張している様子でしたが、

例会について尋ねるとほぼ全員が例会は楽しいと。では例会のどこが楽しいのかと尋ねると卓話の時間が楽しいと答えました。若い外国人留学生にとってロータリークラブの卓話は本当に楽しいのかなと思いましたが、そんなに例会が楽しいならもっと出席できるようにカウンセラーさんをお願いしてみてもとアドバイスをしました。

約半年後の11月下旬から12月上旬にかけて、再度同じメンバーに対して個人面談を実施したところ、毎週例会に出席している奨学生も

おり、全員が半年前とは別人のように育っていました。何人かの奨学生からは、人ってこんなに変わるものなのかと衝撃を受けました。

ロータリークラブは言うまでもなく有能な職業人の集まりです。つまりロータリークラブは奨学生にとっては正に人材の宝庫なのです。ロータリアンと触れ合うことで、奨学生は色々なことをどんどん吸収し育ってゆきます。米山奨学事業はロータリークラブがあってはじめて成り立つ国際人材育成事業と言えます。

奨学生の皆さんは、せっかくの機会なので例会やロータリーの行事に積極的に参加してください。そして奨学期間が終了したときに成長した姿を見せてくれることを楽しみにしています。

「米山奨学生になって思うこと」

大阪産業大学

世話クラブ：大阪城南 RC

張 淵（中国）

皆さんこんにちは、私は中国の山西省運城市から参りましたチョウ・エンです。日本の皆さんは山西省がどこにあるのかわからない人がほとんどです。山西省は北京の約300キロ西のところにあります。「何が有名なの？」って聞かれると、「三国志の武将関羽が生まれたところです。」と答えます。そうすると皆さん「お～！関羽は知っている」と言います。日本人で三国志を知らない人はいないのですね。

今日はその山西省から母が来てくれています。母親の前でいいところを見せたくて、ちゃんと話さなければいけないと思って、とても緊張しています。

私は今大阪産業大学の四年生です。人間環境学部で人と人とのコミュニケーションについて勉強しています。日本に来たきっかけは、知り合いの子供が日本に留学して帰ってきてとても立派になったと母親が聞いて、「あなたも行ってみなさい」と言われたからという単純な理由からです。

米山奨学生として大阪城南ロータリークラブでお世話になって、早くも半年を迎えようとしています。この半年間で学んだことは「感謝の気持ち」です。

はじめのうちは米山奨学生とは奨学金がもらえるだけの、経済的な援助が目的の制度だと思っていました。オリエンテーションでカウンセラーから「例会は最低月1回出席するのが義務ですが、可能であれば毎週出席してください。」と言われました。何だか面倒だなとも思いましたが、「美味しい料理も食べられるからね。」という言葉に惹かれて毎週出席することに決めました。なるほど私が普段食べている食事よりは、はるかに高級で美味しい料理でとても嬉しかったです。でも毎週の例会に出席しているうちに、どんどんロータリーの魅力に惹かれていくようになりました。

私は例会の始まる二時間前には会場に行って事務局のお手伝をし、一時間前には立礼をして皆さんをお迎えするのですが、その時に日本の伝統的な食べ物の蕎麦の作り方を教えてくれる方や、日本の美しい観光地の写真を持ってきてくれて説明してくれる写真の好きな方、また私に中国語を教えてくれと話しかけてくれる方もいます。日本語がまだ上手に話せない私に

もわかるようにとても丁寧に話してくれます。そして「いつもご苦労さま」と私に感謝の言葉をかけてくれます。おかげで日本の素晴らしい風景や文化を知ることができました。例会中は毎週色んなテーブルに座って、食事をしながらお仕事の話を聞かせてもらったり、自分の学生生活や就職活動の悩みなどを聞いてもらったりして私自身大きく成長出来たと感じています。例会が終わる時には「チョウちゃん頑張ってるね」と励ましの言葉を掛けてくれます。またカウンセラーからは私が就職活動で悩んでいる時にたくさんのアドバイスをもらいました。そのおかげで、就職活動を最後まで諦めずに続けることができ、自分好きな仕事の内定をもらうことができました。内定が決まったときには自分の娘のここのようにとても喜んでくれました。皆さん自分には関係のないことなのに私のために一生懸命になってくれて、そして感謝の言葉を掛けてくれます。感謝しなければならぬのは私のほうなのに。

「感謝」ということばを辞書で引いてみると「感」は「物事に接して生じる心の動き」、「謝」は「わびる・ことわる・礼を言う」とあります。「感謝」とは「何かをしてもらったことに対してありがたいと心が動き、言葉にして伝えること」だと知りました。ロータリアンの皆さんはそれを私に伝えたいのだと分かりました。

今私は感謝の気持ちでいっぱいです。私を米山奨学生として選んでいただき、大阪城南ロータリークラブでお世話になり、ほんとうにありがとうございます。

そして私を日本に行かせてくれた両親にとっても感謝しています。

奨学生になってロータリアンの皆さんから感謝の心の大切さを学ぶことが出来たことは、これからの私の人生にとって大きな財産になると思います。あと半年、もっともっと皆さんから多くの事を学びそして吸収し、立派な社会人となって、将来は私もロータリアンになって米山奨学生を応援出来たらと夢見ています。

皆様ご清聴ありがとうございました。

「米山記念奨学会の奨学生として」

大阪大学

世話クラブ：吹田西 RC

鄭 海蘭（中国）



私がロータリー米山記念奨学会の奨学生に採用されてから、そろそろ一年になります。この一年間は、毎月の世話クラブの例会のみならず、学友会の活動にも数多く参加させていただき、自分の世界を広げる大事な一年となりました。さらに、ロータリーの奉仕の精神に溢れている人々との出会いは自分の価値観をも大いに変化させてくれました。

私は独り子で、すごく自己中心的な人でした。自分さえやるべきことをうまくやり、他人に迷惑をかけなければ、この社会に「貢献」のある人だと思っていました。しかし、国籍年齢性別宗教を問わず、異文化交流や世界平和のために力を入れている方々に出会って以来、以前の自分という存在は情けなくてたまりませんでした。社会は個々人の集まりであり、自分はこの集まりの極小さな存在として、横とのつながり及び助け合いがある

からこそ、前に進んで行けることに痛感しました。

ロータリーの奉仕の精神を身近に感じて以来、より一層外国人留学生としての自覚を持ち、勉学に励んでおり、社会への責任感や使命感をより強く感じるようになりました。自分の日本留学が決して一枚の「卒業証明書」で終了するのではなく、この経験を通じて自分が成長し、将来、日本と母国、ひいては世界の架け橋として、更なる人々を支援していくようにになりたいと思っています。いつまでも感謝の気持ちを忘れずに、現在ご支援いただいた分を社会に還元していきながら、ご恩返しをしていきたいという決意に日々溢れています。

日本留学の道を選んだ自分の決意が間違っていないことを改めて確信でき、これから社会人として歩むべき道を確認できる実りある一年でした。

「私にとっての日本留学」

大阪大学

世話クラブ：池田 RC

陶 霆（中国）

小さい頃から、名探偵コナンの影響で、日本、そして日本語に興味を持ち、大学に入って迷わず日本語専門を選んだ私はずっと、「いつか日本に行ってみよう」と思っていました。こんな私は2012年、母校と日本大分大学との交換留学プログラムを通じて、故郷の武漢と友好都市関係を結んでいる大分に一年間留学することになって、初めて日本に来ました。

大分といえば、日本人にとっては「ザ・田舎」の感じかもしれませんが、実は、そう、田舎でした。学校に行く電車は二両しかない、しかも間に合えなかったら一時間ぐらい待たなければなりません。中心部といえば市役所前の町一本だけで、十分もかからず回れると思います。名物といえば湯布院温泉ぐらいで、それに大分県は湯布院よりも存在感が薄く、「大分」が読めない若者すら少なくないでしょう。

しかし、私はこのような大分で、非常に豊多彩な一年を過ごしました。大分大学は多くの国の大学と交換留学契約を結んでおり、アジアだけではなく、欧米から来た留学生も大勢いました。「交換留学」というのは、学費や単位などの圧力もなく、基本遊ぶしかありません。寮でパーティーをやるとか、一緒にどこかの祭りに行くとか、旅行とか、こうして一年間、数えきれないほどの思い出を作りました。例えば公民館で大分市民の前に「ソーラン節」を踊ったこと、火祭りに行って飲みすぎて駅で爆睡したこと、大学祭で当時全世界でも大流行の「江南スタイル」を踊ったこと、大分サッカーチームトリニータを応援しようと思ってチケット買って行ったけれど道間違えてドームに着いたら試合が既に終わり、しかも大分トリニータが惨敗したこと、一月一日の日の出を見るために朝三時自転車で海に行ったこと・・・結局今回も方向間違えて太陽が出た瞬間を見逃したが、あの日みんなの笑顔が生涯忘れられません。

この一年が楽しすぎたから、私は「一年では足りない」と思うようになり、今度は日本の大学院に入って、本格的な留学をすると決めました。こうして大阪大学大学院に合格し、大阪に来て、現在に至りました。

大分での留学は遊ぶだけで、日本に対する理解もごく表面的に留まりましたが、今回大阪での留学は日本人学生並みに試験、発表、勉強会、そしてアルバイトなどをし、日本人クラスメートと一緒に励ましあいながら自分を磨いています。もちろん飲み会なども散々してきました。こうした経験で私は日本社会、そして日本人の考え方に対する理解を深めました。特に今

年ロータリー米山奨学生になって、いろいろ普段体験できないことに体験させて、日本の更なる魅力を知りました。

日本に来る前に、私はネットで他の留学生が書いた感想文にこういう言葉をみました―「日本に留学するのは、日本に入ったのではない、世界に入ったのだ」。当時はよく理解できなかったですが、自分がこの四年の留学を通じて、ようやくこの言葉の意味が分かりました。留学生として日本に来て、日本独自の文化を体験できるだけではなく、包容力が高い日本では、様々な国の文化が体験でき、様々な国の食べ物が食べられ、様々な国の人と出会え、様々な思想と接触できます。そしてアルバイトとかで少し頑張ったら海外旅行も行けます。こうして毎日のように「グローバル化」を実感し、知らないうちに自分の視野が広められ、世界観が大きくなっています。今の私と日本に来る前の私と比べれば、外見が変わっていないが、考え方が豹変しました。

また、日本に来て、故郷と距離を置いていただけあって、故郷のすべてが愛おしくなりました。私は基本年に一回、つまり旧正月の時に帰国しますが、毎回帰るときに、「家の前の道路がこんなにきれい」「部屋の中のすべてがこんなに懐かしい」「母の料理がこんなにおいしい」と思うようになり、以前慣れすぎて無視した故郷の幸せが改めて感じられます。

こうして私にとっての日本留学は、日本で充実した日々を楽しく過ごしているだけではなく、地元愛も非常に強めました。これで自然に考えてくるのは、「日中友好」のことです。四年前、学校の交換留学プログラムを申し込んだとき、「将来の目標」のところで、私は何も考えずに、漠然として「日中友好の架け橋になりたいです」と書きました。この四年の留学生活を通じて、私は本当に日中友好の必要性を痛感しました。日本でも、中国でも、私は大好きで、両方とも大事にしたい人、大事にしたいことが存在します。だからいま良いほうとは言えない日中関係に、私はなんとかしたい、なんとかして改善したい気持ちが強いです。微力ながらも、日常生活でできるだけ日中間の誤解を解消していきたい使命感が強く、十月の卓話当番でも、池田ロータリークラブの例会にこの話をさせていただきましたが、将来にも、日中関係の改善に力を尽くしていきたいと思います。それは、私にとっての日本留学から、一番感心したことです。

「私にとっての日本留学」

大阪大学

世話クラブ：千里メイプル RC

鄭 珉贊（韓国）



多くの人が日本に留学しに来ますが、果たして、その中でどれほどの人が有意義な留学生活を送り、満足して故国に戻っていると思いますか。私は3割くらいだと思います。つまり、多くの人が夢や目標を持たず、なんとなく留学生活を送っているのです。それでは、どのようにすれば有意義な留学生活を送ることができるのでしょうか。私の1年半の留学生活をもとに、より有意義な留学生活を送るための提言をさせていただきたいと思います。

まず、夢を見つけて下さい。こんな言葉があります。「夢がない人生は死んだ人生である。」漠然とした夢でも結構です。例えば教授になる。自分の分野の最高の専門家になる。首相になる。夢を持っている人は何事にも肯定的だし、色んなことに挑戦でき、どんな困難も乗り越えることができます。みなさんも夢を持ってこの留学生活の中で色んなことに挑戦して欲しいと思います。

第二に、気軽に話せる日本人の友達を作して下さい。正直、日本に来る前は、日本人は個人主義的で親しくにくいと思っていました。しかし、実際は思いやりがあり、親しみやすい人が多いです。今では自分の悩みを真剣に聞いてくれる友達もでき、快適に留学生活を過ごしています。人生で最大の幸運とはいいい友達にめぐり会うことだと思います。友達と語り合うことで学校生活での悩み、さらに、留学生活での寂しさも乗り越えられると思います。

第三に、自分を正しく指導してくれる先生と親しくなって下さい。先生は学問を教える人であり、人生の先輩でもあります。授業や研究だけでなく、日本での生活の悩みと進路についても真剣に相談できる先生がいれば、こんなに心強いことはありません。難しく考えないで、まずは自分から先生に近づいてみてください。みなさん

の人生の指導者となってくれる先生に出会えることを願っています。

第四に、日本人の考え方や日本の文化を理解しようと努力して下さい。考え方や文化の違いで日本人とぶつかり合うことがあるかもしれません。特に私は自己主張が強い方なので、研究生生活の中で日本人と言い争うことがよくあります。しかし、振り返ってみると、日本人の考え方や文化に対する理解が不足していたためだと感じました。「なぜ日本人はそんなふうに考えるのだろうか？」と思うのではなく、そのような日本人の考え方や文化に対する理解を深めることが大切だと思います。日本人の考え方や文化を知ることによって、より幅広い視野を持った人間に成長できると思います。

最後に、勉強はもちろんですが、一生懸命遊んで下さい。私は旅行し、色んなことを体験して、日本の文化や歴史を学びたいと思っていましたが、研究生生活が忙しく、ただただ研究室と家を往復する毎日でした。これは、私が今までの留学生活の中で最も後悔していることです。みなさんも学業に追われて忙しいとは思いますが、余裕があるときは色んなところに旅行して日本の素晴らしい文化に触れてみて下さい。きっと違う世界が見えてきますよ。

私もまだまだ有意義な留学生活を送れているとは思っていませんが、日々努力し、日本で皆さんと一緒に勉強しています。留学生活に成功する人、失敗する人、その違いは大きなものではありません。開かれた心で、もっとたくさん学びたいという考えを持って留学生活を楽しみながら夢と目標に向かって進んで下さい。

ご清聴ありがとうございました。

「私にとっての日本留学」

近畿大学

世話クラブ；東大阪東 RC

ヨシュア アディ エカティルタ（インドネシア）

皆さん、こんにちは。東大阪東ロータリークラブの米山奨学生、ヨシュア アディ エカティルタです。本日のスピーチコンテストに参加させて頂いて、誠にありがとうございました。今日、スピーチのテーマとして、私にとっての日本留学について話したいと思います。では、初めさせていただきます。

日本にはじめて来てから、約5年経ちました。上本町にある日本語学校をはじめ、一年半ぐらい日本語を勉強しました。それから応用化学を専攻として、東大阪にある近畿大学に入學しました。今は四年生として卒業研究に励んでいます。さらに来年から、同大学の大学院に進学することになりました。この五年間、様々なことを経験しました。日本に住んでいて、その言語、文化、社会などについて学んで、母国にないことを体験できました。気付かずに、私が色々なことに気付きはじまりました。日本留学ということはその一つです。自分にとって日本留学はなんでしょう。自分が辿り着いた答えはこれです。

私にとっての日本留学とは、日本に対する理解を深めることだけでなく、母国のことに対する理解を深めるチャンスでもあります。これは、日本または、別の国に留学するとき、母国の人、留学生同士と出会えるチャンスが多少あります。自分の国、インドネシアの場合、多民族および多文化などの国のため、自分より別の島また地域から来た方々と出会えることも少

なくありません。互いに自己紹介して、話し合って、それから色々な情報が手に入れたはずですよ。出会えたのは先輩の方の場合、日本に関する情報も色々教えてくれるはずですよ。そして、留学生はたまに文化交流イベントに参加することがあって、そのようなイベントを通して、母国および日本、他国のことなどをもっと深く知ることができます。自分の国を紹介するとき、特に協調したいことに対して、それに関する情報を時間かかって探ってみるでしょう。見つけた情報は多数あって、すでに知ったことがあれば、知らないこともあります。これによって、母国に関する知識も増えると共に、母国に対する関心が強くなると感じています。色々交流することによって、日本（または他国）は、母国と似ているところ、違うところなどが理解することができる。このような場面こそ、自分の縁を広げるチャンスだと思っています。

これから、日本に住んでいく限り、留学生活を終えて、社会人として活躍し始めます。「私にとっての日本留学」より、「私にとっての日本での生活」というテーマに変わります。日々を経て、いつか自分がそのテーマの意味に気づく日が来ることを期待しています。以上スピーチが終わりました。ご静聴、ありがとうございました。

「私にとっての日本留学」

立命館大学（茨木）

世話クラブ：大阪ユニバーサルシティRC

李 撼宇（中国）

2016年10月3日、私は内定式に参加しました。東京都心部の会議室に座って、日本トップレベルの大学出身の内定者と一緒にこの式に参加しました。それは来日前の私と家族にとって、想像すらできなかったことです。

中国の大学を一度卒業したことがあるため、来日の時の私は既に22歳でした。それまでの22年間、正直、特に勉強のほうでは親の期待に応えることができませんでした。しかし、「チャンスさえあれば、必ず努力して見せる」とずっと思っていました。また、「人生はいつでも再スタートできる」という話をずっと信じてきました。そのため、日本に留学しないかという話が出た時に、これこそ人生最大の再スタートのチャンスではないかと考え、迷わずに日本に来ることを決めました。

そして、日本に来て最初から選択しなければならないことがありました。それは大学院に入って修士の学歴を取って帰国するか、それとも学部から勉強し直して日本で就職するかということでした。確かにもう一度学部に入ると、時間がかかりかかります。しかし、日本という新しい世界で親に頼ることがなく、自立してやっていきたいと考え、迷わず後者を選びました。就職活動の時期となると、留学生は日本に残るか帰国するかを迷うことが多いですが、私は必ず日本で就職しようと最初から決めました。

そのため、如何に早く日本社会に馴染むことができるのかは最大の課題でした。その課題を克服するために、まず日本語を上手く話せることが大前提だと思いました。特に、21歳になってやっと日本語の勉強を始めた私にとって、それはまさに差し迫った課題でした。ラーメン屋とかコンビニに行っても、日本語が分からなくて、結局違うものを注文してしまったという悔しさを今でも覚えています。そして日本語の科目は満点400点の日本留学試験ですが、その時模擬試験を受けた結果、160点しか取れず、このままでは大学すらいけないではないかと思いました。その危機感を持ちながら、最初の

夏休みの時間をすべて日本語勉強に使いました。そのせいで、周りの留学生同士の集まりに参加できず、孤立経験も味わいましたが、8か月後350点の成績を取ることができ、理想の大学に進学する目標を達成しました。さらに、大学では日本人の親友を作って、彼らとの日々の付き合いを通して、日本語の会話能力も上達しました。ちなみにその中の一人は、私と同じ経営コンサルティング業界の仕事が決まりましたので、二人とも来年東京に行きますが、オフィスが近いため、社会人になっても夜一緒に飲むことを楽しみにしています。また学内だけではなく、積極的に学外の日本社会とも関わりたいので、小学校に行って異文化交流をしたり、台風被害の手伝いをするボランティア活動をしたりしました。このような活動をするたびに、自分自身が日本と中国の掛け橋となっていることを実感しています。それほどやりがいのあることはほかにないと思い、出来るだけチャンスがあれば参加しようとしています。それゆえ、他の財団と違って、社会奉仕を主旨とするロータリー米山との出会いは運命だと感じ、非常に嬉しく思っています。

そして、経済的な悩みもありましたが、それを克服することができ、やっと就職活動を迎えました。四年間の留学生活で学んだことを余すところなく発揮した結果、早い段階で内定を獲得することができました。最終的に第一志望の企業に入社することを決め、日本留学の最終目標を達成することができました。その後、来日以来初めて帰国し、四年ぶりに親と再会しました。

昔の私は何をしても、親がいるから大丈夫だと思っていました。しかし、四年半の留学生活を経験して、親に頼る考えを知らないうちに捨てました。沢山のひとと知り合い、沢山の知識を学び、そして、沢山の困難に自力で挑戦しました。来年から社会人になりますが、自立への挑戦を続け、さらに高い自己実現を目指していきたいと思っています。

「私にとっての日本留学」

大阪大学

世話クラブ：大阪中之島 RC

盧 聖芸（台湾）

子供の頃からよく日本の音楽を聞いたり日本のドラマを見ていた私にとって、日本への留学は、小さい頃からの憧れの国で生活するという夢を叶えることでした。

ですが、日本に来て驚いたことがたくさんあります。

もちろん、予想していた通りのこともあります。

例えば、道の角で車が出て来たら、日本では、私は自信を持って、“ありがとうございます”といて、安全に車の前を歩けます。（台湾やロンドンでは、その“安全に歩ける”との自信はありません。）

今日は、私が日本に来るまで、想像していなかったたくさんのことについてお話ししたいと思います。それは、大きく分けると、二つあります。

一つは、私が日本に来た一番の目的である研究のことです。

日本に来る前から、私は子供が好きで、そして子供の睡眠が健康に重要な役割を果たし、さらに睡眠が親子関係に深くかかわっていることも知っていましたが、睡眠医学や発達障害については、深くは知りませんでした。

日本に留学し、睡眠医学や発達障害について研究する機会を得たことにとても感謝しています。学会に参加し、同じ興味がある人と議論をし、睡眠に関する知識を学び、臨床実習から更に発達障害の子供について理解が深まりました。これが、私が今したいことで、そして将来も、一生をかけてすることだと思いました。日本で、自分のライフワークを見つけることができました。これは私にとって日本で得た宝物です。

もう一つ、日本に来るまで、想像していなかったことは、日本では日常生活が身近に感じられるということです。それについて、私が感じた二つの例を紹介したいと思います。第一に、私は日本に来てから、毎日料理をするようになりました。

料理が苦手な私にとって、毎日料理を作るのは、とても大変です。もちろん面白い面もあり、チャレンジしたいこともたくさんあります。

幸い、私の周りには日本のスーパーママ達があります。

例えば、同僚の河原さんは“マーボー豆腐”の作り方を細かく教えてくれました。ほかにも「味噌汁は味噌だけなら、味はよくないですよ。味をよくするにはだし汁を入れること。“簡単ですよ！”って。その励ましがあって、初めて白玉粉から白玉団子も作りました。きれいな丸形にはなりませんでした。その“あー！原料から作れるんだ！”という感じは最高でした。台湾の友人にこの話をして、“ああ、のんびりだね！”って言われた時、私の生活は前とは違うと気がつきました。

それまでの私は忙しくて忙しくてほとんど家にいることがありませんでした。することがたくさんあると、生活は一見カラフルにみえます。でも台湾の友人に言われたことで、「ああ生活を味わうってこういうことなんだなあ！」と知りました。

台湾も日本も生活はとても便利です。ただ違うところがひとつあります。台湾は都市に人も物も集中しているので、完成されたものを買う方が安くて便利です。むしろいちから自分で作るためにと思って材

料を集めるほうが大変です。例えば屋台などでは安くて美味しい食べ物がたくさん売っているので、外で買うことが多いです。

でも日本には自分で作るための材料がどこにでも売っていて、しかもたくさんの種類があります。例えばてんぷら用の粉とか、からあげ用の粉とか、卵焼き用のだしとか、焼きそば用のソースとか、たこ焼き用のソースとか、、、鍋の素もたくさんあります。

日本にはこうした革新的な製品がたくさん売られているので、料理をするのがとても簡単になります。

またこうした商品のおかげで手軽に料理できるので、自分の好奇心を満たすために多くの料理にチャレンジして達成感を感じることがができます。

第二に、日本に来て光栄なことにいろいろな人の家を訪れる機会がありました。

カウンセラー井本さんの家、井本さんの両親の家、同僚の家にお邪魔しました。

どの家族にも共通することがありました。

すべての家にスーパーママがいて、そして庭に緑があります。

みんなのためにお好み焼きとか手巻き寿司を準備してくれました。

同僚の河原さんのお母さんがてんぷらを揚げる姿にはとても感動しました。

スーパーママではないですが、カウンセラーの井本さんのお父さんは竹を切って流しそうめんの台をつくってくれました。お盆の準備を親戚みんなが手伝っていました。

みんな家族のために心をこめて色々なことをしていました。

これらの光景は、私にとって良い家族の見本で、家族を身近に感じることができました。

最後に、日本では、台湾や中国語に興味のある人が多いということも驚いたことのひとつです。去年、ロンドンに留学していた時、ロンドンの人達は台湾がどういう処か知りませんでした。「一人っ子政策」がないですねと驚く人もいました。

幸いなことに、ここでは私が会う人たちはほとんど台湾についてよく知っています。中国語に興味がある人も多く、中国語ができる人もいます。

ここで自分の言語を教えることは楽しいです。

ロータリークラブの西田さんと杉村さんの奥様に中国語を教えるとき、はじめて絵カードのような教材を作り、どうすれば面白くて、学習の意欲を引き起こすか、毎回毎回改めて考えることができました。自分が先生にもなれることに気付かせてくれた日本に感謝しています。

これで、私のスピーチを終わります。このような時間をここで過ごさせていただいたことを感謝しています。このような機会を与えてくださった皆様にも心から感謝しています。

「私にとっての日本留学」

関西大学

世話クラブ：大阪鶴見 RC

林 士弘（台湾）



みなさま、こんにちは。台湾から参りました留学生、関西大学社会安全研究科所属の林士弘と申します。現在、大阪鶴見ロータリークラブにお世話になっております。どうぞよろしくお願い致します。

今年9月に、猛烈な台風14号がふるさとしてある高雄市に甚大な被害をもたらしました。その際、日本の方々から温かいご支援をいただきました。この場をお借りして、お礼と感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

さて、本日は、「私にとっての日本留学」について、お話しをしたいと思います。まさか、日本に来るとは思ってもみなかった私は、現在大阪にいます。あつという間ですが、2年が過ぎました。ですが、いつも新しい発見ができるので、毎日充実した生活を送っております。果たして、日本留学で得たことは何かというと、それは、「勇気」です。

勇気は、もしかしたら、大阪の名物なのではないかとつくづく思います。

数年前、仕事の都合で、防災・減災において名高い関西大学の河田恵昭教授にお目にかかったことをきっかけに、関西大学に行くことにしました。入学後、先生の授業を受けた際、もちろん専門的な知識を多く教えていただきましたが、それより、特に印象に残ったのは、先生のいつものセリフです。「勇気」ということばです。河田先生はすでに古希を迎えられていますが、若者以上にエネルギーを持っており、いつも「勇気を持ってやってごらん」と、学生を激励してくださいます。人生の中で、「勇気」という言葉をこんなに頻繁に聞いたことは、本当に初めてのことでした。なんだか、不思議な気持ちになりましたが、非常に励みになりました。

このあいだ、サントリーの山崎蒸留所に行って来ました。そこで、「やってみなはれ。やってみんことにはわかりまへんやろ」と、サントリーの創業者である大阪人、鳥居信治郎がそういうふうに言っていました。ええ、山崎というところは、京都ではないかと思いきや、創業者はなんと大阪の方でした。しかも、河田先生に似たような気迫が漂っている気がします。

考えてみれば、大阪出身の作家である司馬遼太郎もきっと「勇気」という大阪人特有の気質を

の歴史書を読破したほどに司馬遼太郎が最も気に入った時代は、明治時代だと著書に書かれていたからです。明治時代はみんな勇気と夢を持っていた時代です。ドラマ化もされた人気小説「坂の上の雲」の主人公も、勇気そのものです。司馬遼太郎は作品を通じて、日本の国民に明治時代の勇気と夢を伝えようとしていたのでしょう。

それから、安藤忠雄という大阪の建築家は、皆様ご存知かと思います。特に、建築に深い興味を持っていない私も、彼の本を読んだところですが、建築家になる前の安藤忠雄も、大阪人特有の気質を持っている気がします。勇気というものです。大学に行かなかった彼は、死ぬほど勉強し、独学で様々な知識を身につけました。また、24歳の時、4年間ヨーロッパなどの諸国放浪の旅に出ました。その経験が、生涯にも及んだそうです。彼は、ふるさとである大阪が大好きだ、なんでもやってみることができる風土で成長してきたからだと言っていました。

ところで、「右足出せたら、次は勝手に左足が出るんや」という大阪の言葉を聞いたことがあります。それは、一種の勇気だと私はそう思っています。新しい環境をも恐れずに、とにかく初めようということ自体、ものすごく素晴らしいスピリットだと思います。

私はドイツ語を学んでいます。ドイツには、「一つの外国語ができることは、一つの新しい魂を得ることだ」ということわざがあるそうです。私は大阪での留学生活を通じ、日本語という外国語だけではなく、勇気というものも教えていただきました。ですから、その意味で、大阪で生まれ変わることができたと思っています。

大阪でいただいた「勇気」というものを一生大事にしたいと考えています。また、米山奨学生となった以上、将来的にも、次の世代に役立てるような存在、そして、勇気を与えられるような存在になりたいと思います。私の日本の留学はまだ終わっていません。むしろ、日本での留学は、これから世界に飛び立つ旅の出発点だという気がします。

最後になりますが、私の留学生活を支えてくださる皆様に、改めてお礼を申し上げたいと思います。お世話になっております大阪鶴見ロータリークラブの親切な先生方、それから第2660区のロータリアンの先生方、及び、関西米山学友会、そして、私よりはるかに優秀な同期の奨学生の皆様、本当にありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

持っているに違いないと、私は、想像してします。なぜなら、日本

「私にとっての日本留学」

関西大学

世話クラブ：大阪天王寺 RC

崔 璨（韓国）

こんにちは。韓国出身のチェ・チャンと申します。現在、関西大学大学院の臨床心理専門職過程の2年でございます。このように皆様の前でスピーチすることを光栄に思います。この度は「私にとっての日本留学」というテーマでお話しさせていただきます。

まず、日本語を学ぶようになったきっかけと日本留学のきっかけから話したいと思います。日本語を初めて学んだのは中学校に入学した時でした。私の中学校は2つの第二外国語の中で義務的に1つ選ばなければなりません。その中の1つが日本語でした。もう1つは漢字であり、漢字は覚えるのは多いということで日本語を選びましたが、漢字がいっぱい出て来て失敗したなと思ったことがあります。

その日本語を本格的に学ぶようになったのは、ジブリのアニメーションを観覧したことがきっかけであると思います。ちょうどその頃は韓国で日本文化が合法化され正式的に輸入され始めた時期です。ジブリのアニメーションは日本の文化を美しく描いており、私も日本の文化に興味を持ちました。

その後高校生になり、受験生になり、韓国の激しい受験戦争に巻き込まれたくないという理由と、心理学を学びたいと思ひ、自分が生まれ育った環境と文化から離れ、文化に左右されない、より本質的な心理を見たいと思ったこと、日本語をできたことが複合的に作用し、日本留学を決定しました。

留学生として日本に来て6年目になります。日本、大阪に来て驚いたのが3つあります。1つはソテツが植え

られている、2つは電車の会社が多い、3つは人々が信号無視をする、ことです。

韓国では日本人は法律を徹底的に守るというイメージがあります。近い国である故、日本に対するステレオタイプのイメージもたくさんあると思います。失礼になるかもしれませんが、あえてそのようなステレオタイプを申し上げますと、裏と表が違う、綺麗好き、シンとしてるくらい静か、交通秩序を守るなどのようなものです。その後、日本での留學生活が長くなり、大学で様々な人々と会う中で気づいたことがあります。日本には様々な人がいることを。本当にステレオタイプと合致する時があれば、全く違う時もある。同じ人でも状況によってその行動は異なる。私は自身は偏見を持っていないと思い込んでいましたが、その一般的なイメージと異なる瞬間に遭遇際、内心驚いたということからみると、私も偏見から自由ではなかったと思います。

留学の前は日本人という1つのフレームがあり、個人個人をそのフレームに合わせていました。しかし、偏見は大体誤解に過ぎず、実際に目の前にある「人」はそのフレームに当てはまらないことに気づきました。それ以降、漠然なイメージから人を規定することを避けるよう努力しています。近くて誤解も多い国同士ですが、その関係のため気づけることができたと思います。

日本での留學体験はただ知識を学ぶだけではなく、自分の世界を振りかえ、より広げる貴重な体験であります。

ご静聴誠にありがとうございました。

「私にとっての日本留学」

梅花女子大学

世話クラブ：吹田 RC

バンサル クシュブー（インド）



私は6年前に日本に来て、この間に学んだことをほんの数分で表現することは難しいです。まず、兄弟の中で唯一の女の子、末っ子で最も甘やかされていた一人の少女の生活が一変しました。日本で学んだこと経験したこと全てが、こんなに私の私に重要な役割を果たしました。従って、私の人生において、非常に重要な役割を果たしてくださった方々に、この場を借りて三つの誓いをしたいと思います。

日本に来てすぐに、私は、私自身の教育と両親の考え方について学びました。私の国「インド」の教育水準は、女子教育においてはいまだに低く、娘なら小学校へ入れなくてもよいのではないかとさえ考える両親がいるのが現状です。多くの女性や女の子は、両親の考えと同じようなこの社会における教育に葛藤し、戦っています。娘を結婚させたほうが良い年なのに、どうして日本に留学させているのかと、誰もが疑問に思う社会に住んでいる私の両親においては、革命的な出来事の一步でした。しかし、私の両親は私にかたにはまった考えをおしつけることなく、私が留学したいという理由だけで、私の希望を信じて、この大胆な一步を踏み出しました。インドの女子教育の現状について読むときはいつも、私は両親にたいして感謝の気持ちでいっぱいになります。また、それは私の心の支えにもなり、男女平等についての研究への動機づけにもなっています。私の両親は男女の平等の象徴であり、私は、娘であることに本当に誇りに思います。一つ目の私の誓いは、両親に対して、かけがえのないものとして次世代に繋いでいくこと。つまり、自分の研究を一生懸命に取り組むこと、インドの女子教育改善に力を注ぐことです。

つぎに、金継ぎから気づきました。金継ぎは、古くからの陶芸の修復技術です。欠けた断片を金や銀でつなぐことで、一度壊れたものがより美しくなっていきます。審美的にそれは美しさの概念であり、私は人生においての本当の意味であると気づきました。両親の誇りになり、夢と希望を持って来日しました。しかし、私ははじめに失敗しました。私は、家族がいないところで一人で対処することができませんでした。研究に失敗、試験を落とし、体調を崩し、さらに自信を失いました。要するに、私は、自分が本当にダメな人間だと崩れてしまいました。毎日、嫌悪感でいっぱいになりました。みんなは私のことをなんと思うだろう、両親を失望させました。失敗するのはだめ。成功することだけが唯一の道であり、失敗は許されません。結果として、私は病気になりました。

病気との闘いは3年にも及びました。私は、失敗してボロボロになり、失敗の意義を理解しました。人の成長のためには、失敗とあきらめない気持ちがとても重要であると気づきました。それは、壊れなければ見えてこなかった美しさ、金継ぎの本当の意味です。人生における失敗の断片は、単純な出来事であり、思いやりや共感といった金と銀で修復することにより美しく強い人間になるかもしれません。失敗を経験しなければ、成功の意味を理解できないと思います。今、失敗の後、もっと自分に自信が持てるようになり、周りの人々の苦勞もよく理解できるようになりました。

二つ目の誓いは、自分自身に対(たい)してです。自分が失敗しても構わない、失敗しても、自分自身を見失うことなく、望む結果を得るまで諦めないこと。自分に起きたこの経験を通

じ、辛い思いをしている人がいたら、彼らの心が強く自信に満ち、美しくなるように助けたいのです。

今から三つ目の誓いについて話したいと思います。

『出入り口』について、この言葉に魂があると気づきました。人生において、私は、家族をはじめ、友人、先生など人間関係があり、親切、支援、愛情を受けました。そして、今、ロータリークラブのメンバーの皆さまとご縁をいただいています。私は、いつもこの恩返しをどのようにすればできるだろうかと考えます。私は、いつも私が「愛、親切、協力の入口」なのではと思うとき、申し訳なく感じています。私は逆の立場にもなれるよう『出入り口』としたいです。

親切にしてもらったり、愛情や支援を受けても、すべてに恩返しの機会が得られるとは限りません。したがって、人生における恩返しができる最善策は、自分がしてもらったことを他の人にすること、恩をつなぐことです。私はロータリークラブの歌『手に手』『輪に輪』つないでの歌詞にこのような意味をもつと、とらえました。

最後にロータリークラブのメンバーの皆様や私を助けてくれた人々に誓いたいと思います。私はみなさまから受けたことと全く同じことはできないでしょう。しかし、助けを必要とする、困っている人々に同じ優しさ、援助、愛を示すこと。ロータリークラブの愛と価値観を持って、他の人々へ接し、人と人との掛け橋になれるようになりたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

～医療現場で見つけた人垣～

滋慶医療科学大学院大学

世話クラブ；茨木東 RC

楊 成棟（中国）

皆様、おはようございます。私は楊成棟と申します。現在大阪の病院で臨床工学技士として働きながら、大学院で医療の安全管理について学んでいます。

皆様は臨床工学技士という職業を耳にされたことがあるでしょうか。臨床工学技士というのは医療現場で医療機器の操作・運用に携わる仕事のスペシャリストです。私は中国の大学を卒業後、2007年に日本へ留学、専門学校で日本語と臨床工学を学びました。そして、2012年、念願の臨床工学技士国家試験に合格、大阪の病院で臨床工学技士として働き始めました。

皆様は人工透析という言葉をご存知でしょうか。こちらをご覧ください。ここは腎臓です。背中の腰の部分にあって、尿を作っている大切な臓器です。腎臓の機能が低下すると、毒素や余分な水分が体に溜まってしまいます。その毒素や水を除去する治療を人工透析と言います。現在日本では、約30万人の患者さんがいて、週に三回病院で透析をされています。また、厳しい食事制限もあります。

現場に入る前、私は人工透析業務は血液を人から取り出して、機械を通してきれいにしてから体に戻すというただの作業だと考えていました。

新人の一年目、透析治療の危険さがあまりわかっていなかったある日、透析をされた患者さんが更衣室で「苦しい！」と叫んで、倒れました。それを聞いた看護師さんと先輩がすぐ更衣室に駆けつけ、処置をしました。約1時間後、患者さんはやっと回復されました。このとき先輩に「楊さん、透析治療の前後も患者さんに気を配らないとだめだぞ！透析業務は機械のボタンを押すだけの仕事じゃないんだぞ」と言われました。私は初めて自分が今まで機械しか見ていなかったことに気がつきました。

この時から私はまず、患者さんを中心にして、その回りに人垣の輪を作るように医者、看護師、そして臨床工学技士などが患者さんを囲み、サポートしなければならない、そう考えるようになりました。そうすると、自然と自分から患者さんに声をかけたり、透析後に苦しそうにされているときは背中をさすってあげたり、できるようになりました。

辛い治療に来られる患者さんから、「今日は楊さんが担当でよかったあ、ありがと」と言われたり、シフトの関係でしばらく会えなかった患者さんから「ずっと楊さんがおらへんかったから、辞めたんちゃうかと心配してたんや」と声をかけられたり「楊さんのアドバイスやったら食事制限も守らなあかんあ」と言われたとき、この仕事をして本当によかったと心から思いました。そして徐々に患者さんとの間に信頼関係が生まれているのを感じました。

三年目のある日、受け持ちの患者さんから「中国の透析も日本と同じ方法なの？同じ機械を使っているの？」と聞かれたことがあります。透析先進国と言われている日本に対して、中国ではまだ、臨床工学技士という資格もなく、透析機器を管理する専門職もないのが現状です。

この患者さんの一言がきっかけで、私はもっと体系的に学びたいと思うようになり、大学院で医療の安全管理について勉強を始めました。

医療の安全管理と聞くと、最新の機械と設備が第一と思われるがちですが、実はどんなに素晴らしい機械と設備があっても、それだけでは患者さんを守ることはできません。一人の患者さんにかかわるすべての人がお互い声を掛け合い、信頼関係を作り、その上で自分から働きかけて患者さんの周りに人垣の輪を作る、これができて初めて本当の安全管理ができると思います。

現在、中国人留学生で、日本の病院で臨床工学技士として働き、大学院で、「医療の安全管理」に関する研究をしているのは私だけだと聞いています。今、道のない道を前に進んでいる状態ですが、私の後ろには細くても一本の道ができています。今後きっと私の後ろに続いてくれる後輩も出てきてくれるでしょう。

将来、私はこの日本で学んだ技術、そして医療現場で見つけたこの人垣の輪の大切さを後輩たちとともに中国の医療現場に伝え、広げていきたいと考えています。

ご清聴ありがとうございました。

「私にとっての日本留学」

大阪コミュニケーションアート専門学校

世話クラブ：大阪城東 RC

ホスバ ャル ムンフエルデネ（モンゴル）

私がこの二年間半日本に留学している間、たくさんの留学生に出会えました。ヨーロッパ、アメリカ、アジア、様々な世界の国々から様々な理由を持って、日本にやってくる留学生の話を知ることができました。日本に関心を持ち、日本を実際に見たい、新しいことに挑戦し、知らない文化に体験したい、または外国語、日本語の能力を伸ばしたくて、外国人とコミュニケーションを取りたいという人もいます。もちろん、また違う分け方も考えられます。日本には興味はあるけど、留学が終わったら自分の国に帰りたいという人がいれば、日本の社会、文化、習慣、言葉に習得し、日本の社会の一員として日本に暮らしたいという人もいます。

私がどれに当てはまるか聞かれたら、外国語力を伸ばしたい、日本を体験し、日本の社会の一員になりたいと答えます。日本で留学するのは何が一番楽しいと聞かれたら、毎日日本語、または英語を使えると答えます。そんな環境に置かれるとしんどいとか、外国語が難しいとかいう人もいますが、私にとってそれが一番報われるところです。難しいからこそ、外国語で自分の思想を相手がわかるように伝えることに成功するほどうれしいことはないと思います。さらに、何年かを重ねて努力した結果がまさにその言葉を使う環境にいて自分の実力を試すときです。外国語ほど実践的な知識がないと思います。

さらに誰かに、日本での留学で一番大変、難しいことは何と聞かれたら、柔軟でいることと答えます。ポーランド人として日本に住むということは、日本とポーランドの文化の狭間にいることだと思っています。日本の社会の一員になりたいからには、日本の習慣を守り、自分の今までの常識や考え方、確実だと思っていたことなどを考え方のただの一種類に過ぎない、新しい考え方を常に受け入れられる、柔軟な姿勢でいないといけません。といっても、私はまだポーランド人であり、自分のポーランド人としての意識も忘れてはなりません。唯一か間違っ

ているという文化や常識など存在しないと思うことが私の思う柔軟さです。

このように、私は日本に来てからもうほぼ3年が立ち、この間で私が何を得られたのでしょうか。3年前の自分と今の自分を比較すると、確かに日本語、英語の力が伸びました。しかし、それだけではないと思います。まず、自分が生まれてきた文化、ずっと当たり前と思っていたことを改めて見つめなおすことができた。面白いことだと思いますが、日本に来て初めて、ポーランドという国はどんな国なのか、世界でどんな立場にあるのかということを理解できました。さらに、こんな背景の多様な沢山の人に出会えて、その人たちを通して、自分とはどんな人間なのか、何ができる、できないのかをもうちょっと知ることができました。そして、小さな町で生まれ育った私にとってもっと広い世界に出て、やっと自分を国際人としての意識するようになりました。様々な触れ合いや活動のなかで基本的なコミュニケーション能力が身についただけでなく、国際的なコミュニケーションというものはどれほど楽しいものなのかわかりました。さらに大学の様々な機会を通して、グループワークしたり、発表したり、自分ひとりで授業したりして、このようにもうちょっとだけ人の前に立って話せるようになりました。たくさんの日本人と親しむことによって日本の目に見える習慣や文化などについての知識を深めただけではなく、一目では見えない、けっして教科書に書いてない日本人の本質をもうちょっとだけ理解できたと思います。

このようなことができたのは、私を支えてきた人がいつもいたからです。現在もロータリのおかげでもっとたくさんの体験ができます。これから、社会人になって、日本の社会の本当の一員になったときに違う人にも私と同じような体験ができるように頑張りたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

「私にとっての日本留学」

大阪日本語教育センター

世話クラブ；大阪北梅田 RC

サウガスレン オユントウグス（モンゴル）



皆様、こんにちは。オユントウグスと申します。
去年の4月からロータリー北梅田クラブにて、お世話になっております。私が日本に来たのは1年3カ月前のことである。この間、毎日が新しい経験の連続で日本でただ生活しているだけでは味わえないたくさんの感動、驚き、喜び、苦労などを感じた。また、たくさんのことに挑戦し、自分のことをよりよく理解することができた。来日した当初、日本の高度な技術を見てカルチャーショックを受けた。国では車で何時間もかけていくところに新幹線で2時間30分で到着する。草原の国から来たせいかもしれないが、国では都会を離れば平野があるというイメージ頭に浮かんでいた私が新幹線の窓から景色を眺めているとずっとたくさん続くたくさんの建物や家を見てびっくりした。また、留学生でえられた大事なことは色々な国の人との出会いである。中国、韓国、台湾からヨーロッパ、アフリカやアメリカに至る人々と仲の良い友達になり、わからないことや困ったことあっても暖かい心で一生懸命教えてくれたり、様々なことを話し合えたのは何よりも大事なことで国や

言葉は違っても心は同じであることに感動した。そして日本人の様々な優しさや思いやりにうれしく思い、もし機会があれば自分のできることを何かやりたいなあと考えていた。その時、運がよく日本の少中学校で自国の紹介をすることやボランティアに参加するチャンスをいただいて自分なりに少しでも生徒さんたちの国際理解に役に立つことができたので、良かった。

それに、ロータリー米山奨学生をいただいて生活と学習の両方の支えとなった。毎月例会で参加し、たくさんの人と出会い、初めてみんなの前で話すのは大変だったがやさしいロータリーの皆様やカウンセラーと仲良くしになればなるほど緊張するのも無くなってきた。それでいつの間にか、毎回の例会が楽しくなり、米山ロータリーの印象が大分変わりました。

最後になりますが、今後も米山ロータリー奨学生として、感謝の気持ちを忘れず、いつも日々を頑張っていきます。

「日本での留学生活で実感した絆」

大阪市立大学

世話クラブ：大阪城東 RC

王 璇（中国）

まず簡単に自己紹介と今までの大学生活を紹介させていただきます。

私は現役米山奨学生の王と申します。現在大阪大学、経済学研究科後期博士課程院生の二回生です。中国四川省の出身で、八年前に留学するために日本に参りました。高校時代から語学に強い興味を持つとともに、日本に対する憧れがあり、中国の大学では、日本語を専攻致しました。大学で一年間日本語を学んだ後、入学試験を受けて、締結学校の福山大学の二年に編入させていただきました。福山大学在学中においては、経済学部国際経済学科に所属しており、経済の勉強をするとともに、通関士資格向けの通関業法に関する勉強にも取り込んでおりました。四年生になり、進路を真剣で考え始め、今まで勉強して来た知識では一生の使い物としては不十分であると思っており、目先だけを考えれば、大学卒業後に就職してこれまで学んだことを生かし、実際の業務に応用するのはとても魅力的ですが、将来を考えるなら、やはりもっと勉強する必要があると思いました。こうした思いで、大阪市立大学の入学試験を受けて、経済学研究科へ進学させていただきました。大学院において、フランス語を習得しながら、フランス生まれの理論「レギュレーション理論」に依拠し、現代資本主義の比較分析を取り組んでいました。指導教員のご指導のもと、存分に勉強させていただいております。

修士二回生になり、再び人生の交差点に立ちました。日本で勉強した八年間、中国人の私、よその視点から母国の経済実態を見る際、内部から見るときと違う形態に映され、学問としては大変面白く感じております。また、中国の経済に関する研究が数多く蓄積されている一方、制度経済、政策面の研究に関して、十分な理解が進められていないことに気づき、中国の戸籍制度を始め、諸制度形態ついて更なる探究する願望が浮かん、博士後期課程へ進ませていただき、現在中国の戸籍制度を課題として取り組んでおります。

交換留学・ボランティア

では、続いて日本などでの留学生活、ボランティアサークルの参加、そこで得た経験についてお話させていただきたいです。

海外留学と一人暮らしの経験に通じて、自分はそれなりの精神力を持つようになりました。長く続けることと決めたことは最後まで諦めないことが大事だと生活の日々から思い知らされました。勉強、そして仕事で乗り越えにくいことにぶつかった時、その精神力が力になってくれ、諦めずに最後まで頑張ることができるになり、日々の修練で私は克己心が強くなったのだとの自信を持つことが出来るようになりました。

大学、大学院においては、たくさんの知識を勉強させていただいた上に、華やかな学生生活も過ごさせて頂きました。それまたたくさんの国際交流活動を積極的に行ってくれる学校、そしてそれを援助してくださった政府、財団、ボランティアの方々を心から感謝して申し上げます。おかげさまで、交換留学でホームステイや読みあたるのコンテストなど様々なイベントに参加し、学生時代は人生で一番輝く時期の一つであると感じております。

私は学部時代、そして修士一回生の時、それぞれアメリカとフランスへ短期間の交換留学を行いました。日も浅く、ほとんど観光気分、日本ほど心に響く体験ではありませんでしたが、世界が広がり、お友達もできて、とてもよい体験でした。

福山大学に在籍する三年間、YRC ボランティアサークルという部活に参加させて頂きました。「ボランティア」、「社会奉仕」など、当時あまり肌で身近に感じる言葉ではなかったので、部活に入ったのも日本の社会を見たい、語学力を向上したいという浅い考えでした。奉仕活動はごみ拾いから、老人ホーム施設の訪問、養護施設の子供たちとプール遊びなど様々やっておりましたが、「ありがとう」と言われるたびになぜか恐縮で、嬉しいか、恥ずかしいか、複雑な気持ちが交わっていました。こんな簡単なことするだけで「ありがとう」と言われてよいのか、人に笑ってもらうとこんなにも嬉しくなるとは当時初めて覚えました。

しかし、ほぼ同時に社会奉仕、ボランティアなんてただの自己満足しか過ぎないという論説も初めて耳にしました、それを言及すると人間心理学へ深く遡らないと到底解明できないだろうし、現に至って私もよい答えを出せない。少なくとも私の場合、日本に参ってから、たくさんのお方に助けられ、様々な優しさに恵まれて参りました、病気の時お母さんの手作りごはん



をアパートまで届けてくれた同級生の子もいるし、もうすでに卒業生にも変わらず、福山から東京の実家まで帰る度に、大阪で途中下車して、食事をご馳走してくださる大学の先生もいらっしゃる、そして現にロータリークラブで面倒も見てくださいの皆様、ほかに忙しい中で親切に道案内をしてくれた道人、引越しても毎年御餅を送ってくれる近所のおばあちゃん、言い出したらきりがないぐらいお世話になっておりました。

長い人生の間、人は必ず誰かにお世話になりますし、また、人様に迷惑をかけ、困っている時期もあるだろう、その時、誰か手を差し伸べてくれた感動は私が何回も経験いたしました、そして一生も忘れられない。ありがたい気持ちの反面、申し分けなくて何かしてあげたい気持ちにもなります。しかし、何をしても足りなさそうで、その気持ちの中、別のお相手でも、別の形でも、自分の力でできることならその日本社会へ恩返しさせていただきたいです。

言葉でうまく説明ができませんが、ロータリアンの山田さんが大阪柏原ロータリークラブ 45 周年創立式典の式辞でおっしゃった言葉をお借りさせていただくと「時代はいくら変わろうか、変えてはいけぬこともあります。それは人に対する優しさ、気遣い、奉仕する心です」。その言葉は私の心の中深く響きました。現在学業が忙しく、金銭面の制限もありますので、頻繁にはいきませんが、時間の許す範囲で参加できる活動には参加するようにしております。これからもできる限り頑張っていきたいと思います。

ロータリークラブ

これから、米山奨学生に受かりまして、ロータリー世話クラブとの出会い、そしてここで得た貴重な体験、感想についてお話をさせていただきたいです。

正直申し上げますと、米山奨学生を応募するまで、ロータリークラブのことを存じ上げませんでした。ご紹介のパンフレットを拝見させていただき、初めて形上ロータリーと出会いました。とても印象に残ったのは、面接当日、面接官に「奨学生に採用される場合、一定のご奉仕に出席することが義務付けられますので、それでよろしいでしょうか？」と質問されましたが、私は「はい、できる限り喜んでお手伝いさせていただきます。」と答えました。たぶんあまりにも嬉しそうに見えたので、面接官の方一瞬愕然してしまいました。変な子と思われただろう。また、新規奨学生のオリエンテーションで、役員の方はおっしゃった一言、「奨学金だけもらいに来る奨学生には絶対ならないでくださいね」、それもインパクトでした。

実際ロータリークラブの例会を出席させていただいてみて、身近でロータリー活動の中から見られるようになると、なおさら強く感心したのはクラブ会員の方々は会費だけ払っているロータリアンではないことです。ロータリー活動を援助するため、お金を募金した上、お休みの時間を割いて週一回の例会を出席し、運営するため一生懸命に考えて、奉仕活動にも親身に参加しています、その姿はとても美しく映ります。そして、さらなる向上させようと努力を惜しまず姿勢を見せ、先月の例会に出席させていただいた際、田中さんからの卓話はとても啓発的でした。「ロータリーって何ですか？」という質問、当時私も自分の胸を問い詰めてみました。テキストで書いた定番の答

えではなく、心の答えがほしいのです。きっと人それぞれ違う答えが出るだろう？お金も費やし、時間も削って、赤の他人のためにそこまでできる理由は何でしょう？ロータリアンの方々はその質問を考えているように、ロータリーに恵まれ、受け身になるこの私、なおさらそれを知りたいです。これからこの質問を持って、柏原ロータリークラブで勉強させていただく所存です。どうか、御導いていただくよう、よろしくお願い申し上げます。

アルバイト・社会経験

日本での留学生活の話になると、アルバイトは欠かせない一環になります。ただ留学生の場合、マイナスのイメージにつくこともあるようです。確かにアルバイトばかりして、学業を怠ける留学生が増えている今、大いに問題あると思いますが、私にはとてもよい体験ができました。

日本でアルバイトに通じて、仕事の重みを思い知らされ、日本の社会をさらなる理解できました、象牙の塔では永遠にわからない部分。どんなに地味な仕事でも心を込めて、終わらせる。誰かに褒めてもらう中、叱られる中、人間が成長していく。逃げたいときもありますし、退屈と思うときもよくあります、諦めたい、怒りたい、仕事で様々な情が交わって、ぶつけ合う中、最後に仕事の中から責任感というものが覚えました。また、責任を果たした際、達成感を得られることによって、人間も成長していき、会社と繋げ、安心感を得て、心も満たされました。

将来の展望

このように、私は日本で勉強できる幸せを感じております。

最後に、将来の展望についてお話をさせていただきたいです。

17 歳から来日し、たくさんのことを経験し、たくさんの人と出会いました。日本での留学生活を通じて、視野が広がり、日本だけではなく、世界と深い絆を紡ぎました。日本に来て本当に良かったといつも思っております。

しかし、そこでは避けては通れない問題もあります、日中関係が悪化している論調が主流となりつつ傾向の中、私はできることは何でしょうか？それはまた難しい課題です。今まで、政治や歴史問題などと割り切って、ただ一人の人間として受け入れてくださった方ばかり出会えて来ましたので、尚更日本人の方々の広い器に感心いたします。そして、その方達の優しい気持ちを感謝し、世界平和の希望を込め、せめてこの身を持って、本当の日本を母国の人々にお伝えしたいです。よく留学生の皆さんがおっしゃっているように、母国と世界の架け橋になりたいと、微力ながら、私もその架け橋の礎になれば幸いだと思っております。

改めまして、この度ロータリー米山奨学生に受かりまして、末席ながら、柏原ロータリークラブにお勉強、そして皆様とご交流する機会を与えて頂くことには、大変光栄に思っております。ぜひとも、末永くお付き合いいただくよう、よろしくお願い申し上げます。

ロータリー米山学友会（関西）2015-2016 年度会計報告

ロータリー米山奨学生学友会(関西)

2015年度会計収支決算書

自2015年7月1日

至2016年6月30日

収入の部

科 目	金 額	備 考
前年度繰越金	811,990	
特別補助金	248,973	国際ロータリー第2660地区
会報補助金	62,496	米山記念奨学会
總會収入	879,000	
總會寄付金	19,000	
總會補助金	123,000	米山記念奨学会@3,000×41
懇親会収入	676,200	
懇親会補助金	72,000	米山記念奨学会@3,000×24
利息収入	170	
総計	2,892,829	

支出の部

科 目	金 額	備 考
運営費	60,000	
会報作成費	124,992	
總會費用	869,157	
懇親会費用	1,048,605	
雑費	1,296	
次年度への繰越金	788,779	銀行 676,020円、現金 112,759円
総計	2,892,829	

以上ご報告申し上げます。

2016年7月3日

会計 東 林華



会計監査報告

会計監査の結果、会計収支決算書は適正と認めます。

会計監査 李 麗俞



ロータリー米山学友会（関西）2015-2016 年度会計報告

ロータリー米山奨学生学友会(関西)

2016年度会計予算書(案)

自2016年7月 1日

至2017年6月30日

収入の部

科 目	金 額	備 考
前年度繰越金	788,779	
特別補助金	400,000	国際ロータリー第2660地区
会報補助金	100,000	米山記念奨学会
総会収入	880,000	
総会補助金	150,000	米山記念奨学会 @3,000×50
懇親会収入	680,000	
懇親会補助金	90,000	米山記念奨学会 @3,000×30
利息収入	100	
総計	3,088,879	

支出の部

科 目	金 額	備 考
運営費	100,000	
会報作成費	200,000	
総会費用	1,000,000	
懇親会費用	1,000,000	
雑費	10,000	
次年度への繰越金	778,879	
総計	3,088,879	

以上ご報告申し上げます。

2016年7月3日

会計 東 林華



2016 年 活動スケジュール

日付	2016 年度～ 2017 年度行事内容	場所
2016/4/6	2016 年度米山新奨学生オリエンテーション	ヴィアーレ大阪
2016/7/3	2016 年度米山総会及新規奨学生歓迎会 【ワンワールド】	KKR ホテル大阪
2016/8/20	いつやる？今でしょ～ 夏バーベキュー	舞洲 BBQ ガーデンオーチャードクラス
2016/10/16	地区奨学金委員会主催米山奨学生レクリエーション大会	宝塚劇場—観劇
2016/11/5	第5 回 国際ロータリー第 2660 地区 米山奨学生ふれあいスピーチコンテスト応援参加	サニーストーンホテル別館3階、富士の間
2016/11/19 ～20	一泊二日・体力耐力懇親会関西学友大集合in米山梅吉記念館	山中湖・東照館
2016/12/3	(第 14 回ロータリー X'mas in USJ) 大阪ユニバーサルシティロークラブ 主催。施設の児童を招待し、学友会は一日親として：応援参加	ユニバーサルスタジオ
2016/12/9	R I 2660 地区 2016～ 2017 年度地区大会	リーガロイヤルホテル
2016/12/10	R I 2660 地区 2016～ 2017 年度地区大会	大阪国際会議場
2016/12/10	2016 年年末忘年会	Sound Boots
2017/1/28	米山奨学会選考試験の応援参加	サニーストーンホテル『鷹の間』
2017/2/25	地区奨学金委員会主催の米山記念奨学生終了式、歓送会	千里阪急ホテル
2017/3/4	2016— 2017 年度 米山感謝祭	KKR 大阪ホテル
2017/4/22	2016 年度米山学友会第 2 回役員会	会長事務所
2017/6/3	企業見学-奈良まち歴史	奈良

2016 年度米山総会及び新規奨学生歓迎会報告書



「実践躬行」

開催場所；KKR ホテル大阪（銀河）

日 付：2016 年 7 月 3 日

2016 年 7 月 3 日関西米山学友会総会、天気（晴）、今年は韓国国際大会の後、準備期間 1 ケ月しかない中、いかに余韻を残しつつ、米山学友合同懇親会の素晴らしさを皆さまと一緒に味わって頂き、「米山学友合同懇親会 in Seoul」の雰囲気をも再現しました！

- 1、韓国伝統楽器芸； サムルノリ
- 2、韓国民謡； アリラン
- 3、ダンス； スペイン系ダンス

学友、奨学生の協力で大成功！！

今年も多く海外台湾、韓国、タイ、日本国内 2640 地区、2620 地区、2690 地区、2680 地区から多くの学友が駆けつけてくれました。そして他地区ロータリアン先生の参加もあった、多いに盛り上がり、勿論一番大事なのは、たくさん学友のご参加と努力で今年も楽しい総会でした。

★ 2016 年度総会様子 <https://www.facebook.com/pg/yoneyama2660> にご確認

2016-2017 関西米山学友会行事写真





韓国学友会総会に思うこと

世話クラブ: 和歌山東 RC
2004 ~ 2008 年度関西米山学友会会長

林 小微 (Lin Hsiao - Wei)

2016 年 11 月に韓国学友会全炳台会長のお招きを頂き、関西学友会を代表して参加いたしました。全炳台教授が会長に就任した 2014 年は私の都合で参加できずに悔んでおりましたが、今回、年々活動が盛り上がっているのを実感し、韓国学友会の活動再開に微力ながらお手伝いした者にとっては、感無量の想いでした。

振り返りますと、2004 年 7 月に私が関西学友会の幹事長となり、間もなく会長代理兼任となった時に、2660 地区の山本和雄米山委員長から連絡の取れない学友を探して欲しいと頼まれ、預った名簿を片手に役員数人で手分けして、片っ端から連絡を取るローラー作戦で台湾、香港、韓国、をはじめアメリカまでも学友を探しておりました。

当時、関西学友会の役員に韓国出身者がいなかったため、少し韓国語を勉強していた私が韓国を担当していました。2008 年には元役員の先輩方に助けていただこうとソウルを訪問し面談しましたが、協力を得られないままの帰国となりました。

その後、2660 地区 PG・米山記念奨学会常務理事の近藤正臣先生に相談、東京のロータリー米山記念奨学会坂

下事務局長を訪ねて事情を説明し、多くの先生方にご協力いただく中で、2009 年 9 月当時 2660 地区のガバナー大谷 透先生が渡韓の際に全炳台教授に会って頂き、韓国側のリーダーに最適な方であると推薦致しました。見立てどおりに、全会長は熱意をもって韓国学友会の活性化に取組まれ、2010 年の関西学友会総会にも出席いただき、私たちと学友会活動の意義について語り合うなど、日本側との協力体制も整えることができました。その結果 2014 年の総会には韓国学友・関係者のほかに日本からも 100 名以上の方が駆けつける盛会となり、ソウルで昨年開催された「学友合同懇親会」には学友、ロータリアン、ご家族を含め 333 名が参加する盛大な会合となり大成功を収めました。この間、全会長をはじめ韓国学友会の役員の方々の熱意とご苦労には本当に頭の下がる想いです。韓国の学友が日本、世界との懸け橋になっていることは非常に嬉しく、私たち関西学友会も頑張らなければと勇気づけられます。

最後にこの場を借り、学友会活動にご尽力を頂いた皆様に改めてお礼を申し上げます。



2009.07.04 ソウルにて韓国米山との食事会



2009.07.27 建国大学校忠州キャンパス全総長、金守基 OB と

中華民國扶輪（ロータリー）米山会総会に参加して

守口イブニング RC
第 2660 地区前米山奨学委員会委員長

福田 治夫

関西学友会総会の特徴は台湾、韓国、中国、タイ、マレーシア等海外からも多く参加してくれていることです。そのお礼もかねて海外の学友会総会に参加しようと思いましたが、日程的なこともあり、今回、昨年度に続き中華民國扶輪米山会（以下台湾学友会という）総会に参加しました。前地区米山委員長と言うだけで、直接世話をしていない元奨学生皆からも歓待を受けました。

台湾学友会の大きな特徴は、

1. 1983 年設立の海外最初で社団法人である。
 2. 総会の公式言語は日本語。（後で台湾語に通訳）
 3. 元奨学生からロータリアンになった方が多く 3 人目のガバナーを輩出している。
 4. 学友が集まって台中文心ロータリークラブを設立した。
 5. 学友が資金を出し合い日本人留学生に奨学金を給付している。現在 16 人目
- この奨学事業には大いに感銘を受け、幾ばくかの寄付をしてきました。

米山梅吉氏の精神を引き継ぎ実践していることは、米山奨学委員会に携わった者にとって誠に誇らしいことです。日本の全てのロータリアンに知ってほしいことです。

懇親会では、第 2660 地区からは若林米山記念奨学会理事（地区 P G）、西谷元委員長、古城現委員長、潘関西学友会会長、何前関西学友会会長をはじめ多くの学友が参加し、日本の他

地区のロータリアンも多く参加し台湾の学友と親交を深めました。

翌日の日曜日には学友会主催の日帰り観光旅行の日帰りも実施され多くの学友が参加し楽しみました。

私は、個人的に元カウンセラーの西谷氏（元地区米山委員長）と贅沢な観光をしてきました。何が贅沢かと言うと、元奨学生の夫の弁護士にマイカーの運転を、妻の元奨学生の大学準教授には通訳をさせ、また土産物屋では値切りもさせたことです。社会で活躍する立派な夫婦に観光案内、通訳をしてもらうことは米山事業に取り組んだ者にとっては最高の喜びです。最後に台北の一流ホテルで晩御飯を御馳走になりました。

丸一日世話になったので「夕食は私が支払う」と申し出たとき、彼らは「日本に留学して、お金が無い時に潤沢な支援をいただいた。お蔭で勉強に専念できた。今の私たちにはこれぐらいは大丈夫です。」とのことでありました。

訪日の時は、私が御馳走することを約束して遠慮なく御馳走になることにしました。

このような素晴らしい奨学生を支援する機会がある事はロータリアンとして最高の喜びです。これからも小遣いを節約して米山奨学事業を支援していくことを改めて決意しました。



台湾学友会総会に参加

世話クラブ；奈良 RC
2013 年～ 2015 年度関西米山学友会会長

何 玉翠 (HO YUTSUI)

中華民國扶輪米山會 2016 年度総会に参加

関西チーム今年も年末に恒例の台湾米山総会に参加、学友、奨学生、地区奨学委員会先生たちと家族で参りました。今年はいつもの場所と違って、郊外にあるゴルフ場「桃園市的揚昇高爾夫鄉村俱樂部」にて開催、何とも言えない開放感の中、久々に会う学友たちの笑顔が印象的でした。

今回、関西学友は台湾出身の私たち以外に中国、モンゴルの現役奨学生も一緒に参加、初めての台湾にも関わらず初対面の台湾学友先輩たちと総会前夜の台北を満喫、そして噂でよく聞く夜市の食べ物をチャレンジして、米山の交流が最高と喜んでいた奨学生たちでした。

今年度台湾の総会は台湾にいる学友が各地からの参加、そして日本から帰国した新規加入の学友たちも初出席、海外からでは関西、韓国、マレーシア、タイ数か所の学友会も参加し、一緒に 2017 年度「世界学友」の連盟について、議論しながら、マレーシアの学友会設立ともに

参加の約束を交わしました。

総会はずいぶん吳憲璋理事長が日本留学時の思い出と 40 年間職務経験を語りながらの挨拶、そして、台湾総会に初参加、国際ロータリー米山記念奨学会副理事長（2660 地区パストがバナー）－若林紀男様のご来賓挨拶でした。

米山奨学金制度に感謝の気持ちで台湾学友会は日本留学生に奨学金の制度を実施しています。毎年帰国した日本奨学生たちも台湾総会時に日本から帰ってきます。総会で自分たちの成長報告し、まさに米山の精神は日本だけではなく、台湾でも次世代にも続いている。

宴会がつづき、台湾出身の陶芸家張義明が寄贈した作品のオークションで最高に盛り上げり～～～盛会に終えた台湾総会でした。また、来年も一緒に参加にいきましょう！



－関西チーム－

関西学友会：林小微、何玉翠、潘振興、張淵、バルツンヤム、タリマ
2660 地区米山奨学委員会：古城紀雄委員長、西谷雅之パスト委員長、
福田治夫パスト委員長 家族：西谷文江、北山治信
皆さま、お疲れ様でした！

－日本人若手研究者対象奨学金－

台湾学友会が台湾の大学・大学院で学ぶ日本の若者に奨学金を支給し、日台の絆を深める人材を育てようとする奨学金制度です。この奨学金制度に賛同し、毎年西谷パスト委員長の母親文江様も台湾総会に参加し、奨学金を寄付。今年福田パスト委員長も父親の 90 才祝い記念に奨学金を寄付。



マレーシア米山学友会（MRYA）創立記念式典参加報告

大阪城南 RC

関西米山学友会サポーター（2013 年度 地区米山奨学委員長）

西谷 雅之

2017 年 2 月 18 日、マレーシアのペナンで行われた世界で 8 番目の米山学友会創立記念式典に立ち会えた事は、ロータリー米山記念奨学事業に係った者として大変光栄であり、また 1990 年にマレーシアに現地法人を設立以降 25 年以上もマレーシアという国と係った者として一層感慨深いものであった。

当 2660 地区からはロータリアン 2 名（吉田悦治氏・大阪大淀 RC と私）、学友会関西より潘振興会長・何玉翠前会長・林小微元会長の 3 名と学友のご家族（北山信治氏）の 6 名が参加。中華民国扶輪米山会の呉会長ご夫妻とはホテルも同じでずっと行動を共にした。他地区の参加者や当日の様様については既にハイライトよねやま 204 号（2017 年 3 月 13 日発行）や FB の学友会ニュース及び Malaysia Rotary Yoneyama Alumni Association のページに詳しく伝えられているのでここでは割愛させていただき印象に残った事を 3 点ほど書いてみたい。

まず、記念式典の司会を第 2550 地区現役奨学生蔡智賢君（真岡 RC）が務められたのだが、彼のカウンセラーご夫妻が式典に参加されていたという事。これこそ米山奨学制度の最大の特徴が体现されていると言えるであろう。次に MRYA が公式にマレーシア政府によって承

認され登録されたものであるという事。マレーシアにおいてこの様な団体が公式に承認されるのは大変労力の要る事であり、成し遂げた MRYA の皆さんには学友会にかける並々ならぬ熱意が感じられる。台湾学友会は法人格を持っていると聞いているが、他の学友会でこの様にその国で公式に承認されている学友会がどれ位あるだろうか。だからと言う訳では無いだろうが式典にはペナン RC とジョージタウン RC の会員が多数参加されており、今後マレーシアのロータリアンと日本のロータリアンの懸け橋となる事も期待される。

ひとつ気になったのはメンバーにマレー系マレーシア人が居なかった事である。これについて、マレー系は国費留学生が殆どだからという話であった。確かにブミプトラ政策によってマレー系が優遇されてはいるが、私が知っているだけで当地区では 2 名のマレー系奨学生が居る。マレー系の学友を如何にして MRYA に参加させていくかが今後の課題となるのではないだろうか。

益々の MRYA のご活躍と発展を祈念して報告を終えたい。



2017 年度会報募集要項

募集要項

2660 地区米山学友会関西地区奨学生の皆様、
本学友会の活動をまとめる会報第 34 号の入稿についてお願いいたします。
入稿について以下の事項にご注意ください。

テーマ	「私の夢について」、「来日して自分の国（ふるさと）と違うなと思ったこと」 どちらかを選んでください。
字数と枚数	約 1000 字
内容	基本的には自由（エッセー・感想文なども可）です。 ※研究レポートを提出することは、お控えください。
言語	日本語または英語
原稿締切り	2018 年 2 月 28 日 時間厳守でお願いいたします。
送付方法	原稿は PC メールでの入稿をお願いします。 ※メールアドレス :yoneyama2660@gmail.com
注意事項	1. テーマを必ず冒頭に記入をお願いします。 2. テーマの下に、所属大学および専攻・名前・国籍、 と現・元世話クラブの順番でお願いします。 (例: ○○○○大学○○専攻 大阪花子(日本)、世話クラブ: ○○ RC) 3. 文章の最初に簡単な自己紹介をお願いいたします。 4. 提出期限を厳守してください。 5. 作文を提出する際、顔写真 (JPEG) も一緒に送ってください。 できない場合、上記のメールアドレスまでご連絡ください。

編集チーム

編集：鍾 允順（学友・2014 — 2015 年度米山奨学金受給者・世話クラブ；池田くれは RC）

校正：何 玉翠（学友・1987 — 1989 年度米山奨学金受給者・世話クラブ；奈良 RC）

総括・校正：松田 振興（学友・1996 — 1998 年度米山奨学金受給者・世話クラブ；奈良大宮 RC）

あとがきについて印象深い思い出があった。

大学のときに、ライトノベルを常に手にする同級生集団があった。彼らは、日本語学科の一年生なのに、もうすでに日本語の小説を堪能していた。彼らとしゃべる時、なんだかずっと作者のあとがきにツッコミをした。ツッコミのポイントは、作者が常に内容と関係なく、他愛のなく、感謝の気持ちもないあとがきを書いているようだ。ツッコミをしても、彼らの表情からうかがうと、全然いやな気持なく、逆にそれについて熱弁をした。高校時代に、サークルの同人誌集を編集したことがあった。もちろん当時、あとがきも書いた。具体的に何についてを書いたのも、すでに記憶の引き出しのどこかに押し込んでしまって、全く思い出せない。たぶん投稿者、指導先生への感謝の言葉や同人誌を完成するまでの苦労など、その類いの内容であろう。

大学の同級生は、伝統的なあとがきではなく、全然関係ないあとがきを楽しんでいた。なるほど、あとがきは、別に成立するまでの経緯を書かなくても、読者に愛読されている。というわけで、あとがきのかわりに、思い出を述べさせていただきます。

最後に、本会報完成するまで、まずたくさんの投稿者に感謝を申し上げます。そして、編集の重役をくださった米山奨学生学友会（関西）の松田（潘）会長、訂正をくださった何前会長、写真を提供してくださった 2660 地区ガバナー事務所の井上望美さま、そして、米山奨学生学友会（関西）の活動に参加した先生と学友及び奨学生、本当にありがとうございました。これからの活動もたくさんのご参加をどうぞよろしくお願いします。

2017-18年度は
財団設立50周年

「ロータリー米山記念奨学会 財団設立50周年記念」



世界米山学友による 感謝 in 熊本

2017年度、ロータリー米山記念奨学会が財団設立50周年記念を迎えることを祝し、世界米山学友による【感謝 in 熊本】を開催いたします。

そして、記念事業として『世界米山学友会』を発足します！

世界各国、日本各地からの米山学友・奨学生と、日頃米山に関わりの深いロータリアン、家族が一同に集い、再会を喜び、成長を報告し合い、友好を深め、この50周年を共に祝いましょう。

開催日時 2017年 8月 26日 (土)

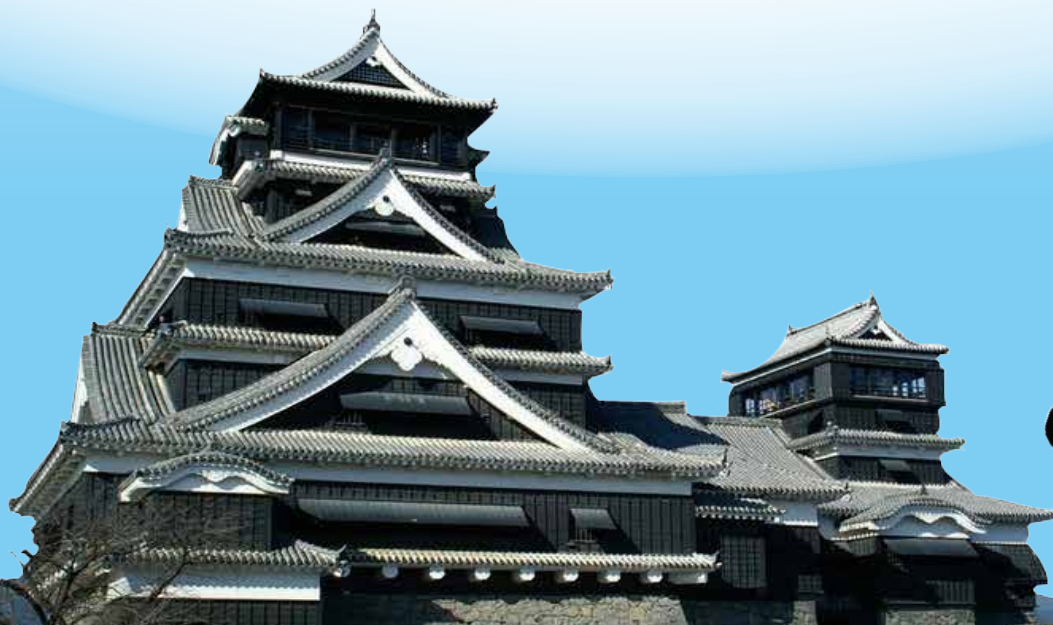
16時受付開始、17時～21時（式典&懇親会）

場 所 A N A クラウンプラザホテル熊本ニュースカイ 2階「ストリングス」

登 録 費

・ロータリアン	¥10,000（ロータリアンになった米山学友含む）
・米山学友・奨学生	¥5,000
・一般友人・家族	¥6,000（ロータリアン家族含む。小学生以下無料）

・ホスト学友会	国際ロータリー第2720地区（熊本・大分）米山学友会
・ホスト地区	国際ロータリー第2720地区 米山記念奨学委員会
・実行委員会	米山学友合同会実行委員会
・後 援	公益財団法人ロータリー米山記念奨学会





33

**ROTARY 2660 YONEYAMA
ALUMNI KANSAI 2016-2017**